

## 茂原市学校再編に関する住民意見交換会 議事録

### 【豊岡小学校】

- 日 時：令和3年5月19日（水）19：00～20：45
- 場 所：豊岡小体育館
- 参加者：15名
  - ・ 審議会委員 2名
  - ・ 事務局 18名

教育長	内田 達也
教育部長	中村 一之
教育部次長（教育総務課長）	佐久間 尉介
学校教育課長	金澤 勤
学校教育課主幹	伊藤 信博
学校教育課主幹	宮内 智之
教育総務課長補佐	小安 宏尚
教育総務課学校再編推進室長	大橋 康博
教育総務課係長	吉野 司
教育総務課学校再編推進室主査	石田 卓也
教育総務課総務係副主査	太田 智弘
教育総務課学校再編推進室主事	紺野 晃弘
教育総務課学校再編推進室	深山 秀樹
教育総務課学校再編推進室	狩野 久志
防災対策課長	小久保 堅
企画政策課長補佐	永棟 圭介
土木建設課長補佐	細谷 明弘
土木管理課長補佐	鈴木 久幸

- 1 開 会
- 2 教育長あいさつ
- 3 茂原市の学校再編について 事務局にて資料に基づいて説明
- 4 意見交換

（以下、意見交換）

住 民 学校再編については、反対はしていない。将来的に再編というのは、反対ではない。なぜ、あの場所に本納小学校を建設するのか。本納地区の保護者の方から早急なる本納小を安全な場所につくって欲しいという意見があったというような答えが出ると思う。果たしてあの場所が安全で、教育にいいと思うか。私はそう思わない。2019年度の水害の時も、大水の中で、保護者の方が中学まで迎えに行くのも困難な状態だった。そこに小学生を通わせるのか。鉄道、JRも通っている。どれだけの防音対策をしているかわからないけれども、いろいろなデメリットがあると思う。

小中一貫教育っていうのは、具体的にどのようなものか、茂原市の教育委

員会として、本納小本納中でどういことをやりたいか全く見えない。統廃合に反対しないと言ったが、私の孫はあそこには通わせたくない。

佐久間次長 第一次実施計画の中において、本納地区の3小学校を統合し、特色ある教育を推進する、というような中でスタートしている。そこで、残念なことではあったが、本納小裏の崖が土砂災害警戒区域の指定を受けた。その中で、本納小のPTAの方たちから、一刻も早く本納小を何とかして欲しいという要望をいただいた。私どもの計画とも合致している中で、市役所内でも協議をした。子供たちの安全を最優先に考えるということで、進めてきたわけである。その中で、既存校舎との連携を考えた。校舎の設計や建築方法も工夫をしている。周辺道路の整備等も、グリーンベルトなどをやっている。安心安全な学校づくりに取り組んでいる。

金澤課長 令和元年、今まで経験したことなかった大雨が、茂原市全体にも降った。本納地区の周辺にも水がたくさんたまった。一部の子供たちが、水がたまった中を下校するという危険な状況もあった。茂原市としては、それまでは中学校区を基本としながらも、校長の判断で子供たちの下校や登校について決めていた。しかし、各学校の判断ではなくて、茂原市全体として統一した基準が必要だと判断し、昨年度から統一した基準を定めた。気象庁からの大雨警報や洪水警報が出た場合には、それが6時の時点で出ている場合は、市内の全小中学校は臨時休業にするなどして命を守る対応をする。

小中一貫教育は、聞き慣れない言葉であると思うが、国の定義としては、小中学校段階の教員が目指す子供像を共有して、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育と定められている。今までの6年間と3年間をつなげた形で、9年間を一つの大きなまとまりとしてとらえ、学びの連続性を図る。小学校と中学校の生活面の指導がうまく繋がるようにする。これを総称して「スタンダード」という呼び方をしている。学習面でのスタンダードもある。この4月から本納中学校区では、本納中・本納小・新治小・豊岡小学校、4校で小中一貫教育を進めている。生活習慣について、特に4校で力を入れていこうと決めていることが、挨拶と言葉遣いについてである。また、学習面での決まりについては、話し方と聞き方について4校で特に意識をして子供たちに指導していくようにしている。行事等も一緒に実施することで、中学生の立場からしてみると、小学生の手本になるような気持ち芽生えてきたり、小学生もお兄さんお姉さんに感謝をする気持ちを持ったりということで、小中一貫教育の良いところではないかと考えている。

住民 大変参考になった意見、答弁だと思う。小学生の子供たちが、中学校のお兄さん方と一緒に遊べる、それで社会のルールを教わると、そういうのは大変大事なことだと思う。それ以外のことについては、教育のこの一環の流れというのは、別に隣に校舎があるから、そういう一貫の流れで教育ができるとは思わない。やはり、6年間で学んで、別の場所にある中学校に行って、中学生生活をおくる。それはさほど変わらないと思う。しかし、近い場所で、

お兄さんお姉さん方と子供たちが接して、社会ルールを学ぶことは大変重要なことだと思う。

グラウンドの使い方とか、遊具整備、これはどうなっているか。

大橋室長 プールを撤去して、そこに小学生が使えるような遊具を設置する。すべり台などの遊具を設置する。

住民 グラウンドを使って、小学生の子供たちは遊ばないのか。そうしたら、中学生のお兄さんお姉さんと小学生の子供たちが、相まみえて遊ぶってことができないのではないかと。この中に押し込めて、子供たちが外で伸び伸びと遊ぶことができないのではないかと。

金澤課長 いろいろな状況が想定されると思うが、小学生が遊具がなくて困らないように、遊具をつくる予定でいる。小学生は遊具も使えるし、広いところでも空いていれば、そこで一緒に遊ぶこともできる。グラウンドをうまくみんなで協力しながら、譲り合いながら、一緒に使っていくってということが、実際のことになる。

住民 統廃合により、教職員の採用も当然抑えてきているという観点から、特色ある小中一貫の本納中学校、実際どういう考え方なのか、総論的には伺ったが各論が全然わからない。例えばでもいいので、1例2例、出していただいた中で、具体的に子供たちのためにする特色ある教育環境というものを、説明してほしい。

金澤課長 教員の数は法律で決まっておき、学級の数により教員の基本的な数が決まっている。その他に、各学校で要望を出していく。いろいろな学校から要望が出るので、総合的に考えて千葉県全体で、要望を見ながら配置していくことになる。本納小、本納中、新治小、豊岡小学校の小中一貫教育を進めるにあたって、学校の方から要望してもらった中で、その要望が通れば、先生が増えることになる。そして、特色ある教育の一つとしては、中学校の先生が小学校に指導に行き、専門的な立場から子供たちに指導したり、乗り入れ指導をしたりすることを計画し進めている。また、職員数の関係にもよるが、小学校の先生が、中学校に行き、教えてあげるなどのきめ細かな指導についても、できる範囲で進めていく。

住民 特色ある教育というのは具体的に言うと、例えば、タブレット端末を使ってパイロット的に何年生はやるとか、そういう具体的な話を出していただきたい。そうしなければ今の話は誰でも考えられる話だ。教育の方の予算も当然あると思うが。是非とも、本納中として中学校の名前を残していただくという方向と、それに伴って特色ある教育ということですので、そのくらいを一応考えていただいて、保護者の皆さん方も納得するような方針を出していただくに非常にありがたい。予算も検討した中で無理なのかどうか、具体的に提示して欲しい。いろいろな説明、特色あるって言っても、そこに対して皆さん方も説明がしやすいかと。予算もあるが、是非とも検討いただければと思う。

金澤課長 子供たちがたくさんいた昭和60年と、今の数は全然違う。法で定まっている以上、学級数に応じた職員数、それから要望に応じた加配の教員ということになっている。学校としてももっともっと先生が欲しいという状況ですけれども、県費負担職員といたしまして千葉県の方で採用して千葉県の方で雇っているので、頑張っていくますけれども、私たちどもではちょっと決められないということがある。ハードの部分ではこの4月から、国の方針で、小学校1年生から中学校3年生まで、1人1台のパソコンが割り当てをされた。そのコンピューターを使った授業で、情報を活用する力をこれからつけていく必要がある。茂原市としても、そのようなことが専門的に教えらるる人を雇い、学校へ行って、教えたりしながら、先生方も研修をしながら、子供たちがコンピューターを活用した授業が進むように計画していく。

住民 私は少子化なのだから、統廃合はやむを得ないとは思っている。これは必然だと思う。ですが、なぜあの場所に必要なのか。それとプラス、二宮小学校と緑ヶ丘小学校の統合。これに対して、市当局はどのようなやり方で、統合したか。

大橋室長 第一次実施計画の中で、統合時期ということが明記された。統合に至るまでは住民との意見交換会や保護者の意見を聞いた中で、計画が策定された。そのあとに準備委員会を立ち上げた。こちらにはPTA、地域の代表、両校の学校の先生にも入っていただいて、その中で、必要な事項について協議した。例えば、校章、学校名、校歌、スクールバスなどを協議しながら決めた。

住民 既存の校舎を使っているわけだね。

大橋室長 統合後の校舎は、緑ヶ丘小の校舎を使っている。

住民 だから先ほどから言っているように、何故あの場所に、小学校校舎を建てなければならなかったのか。逆に言うと、豊岡小学校は、キャパシティはある。教育環境も他に比べたら大変すばらしいものがある。一昨年、茂原市内の全教室にエアコン設置、その前にはこの体育館もそうだが、耐震構造工事もやった。そういうものを踏まえて、今あるものを使わないで、なぜわざわざ劣悪な場所につくるのか。皆さんの税金です。この耐震構造は国からの予算をもらっていると思いますけど国からの予算だって、我々の税金です。統廃合反対とは言っていない。あり方がおかしいと、プロセスがおかしいと思っている。その辺のところを、皆様方本当に、それであれって良かったのか。この先もね。再編問題、新校舎建設にあたって、いい仕事だったなって本当に思うか、自信を持って本当のところを聞きたい。

大橋室長 お手元の資料13ページに今の本納中の位置が書いてある。小学校の児童が減ると、当然中学校の生徒数も減る。第一次実施計画の中では、本納中学校を存続するのかどうなのかということが議論されている。本納中学校の位置というのは他の中学校と近い状態にはないので、本納地域には本納中学校が必要である。これがまず一つとして結論と出た。そして、この本納中学校は本納地域の中心にあるので、小学校3校を一つにしようとしたときには、

それぞれ通学が必要となってくる。児童の負担を考えると、この本納中付近、中心地域がいいだろうと。本納中付近で、土地を調べたが良い土地が見つからない中で、要望が出てきた。要望の内容と、本納中学校の余剰教室を利用できないかというところで、本納中のあの位置に校舎を建てている。使い方としては普通教室以外の特別教室を中学校と共有することになるので、これを効率よくやる場所として位置が決まった。

住 民 35人学級ということで計算すると、豊岡小が合併すると、スペースが足りなくなる。だから、本納中学校の余剰教室を使うという考えですね、今の答弁は。であれば、豊岡小学校には余剰教室があるわけで、なぜそれを有効利用しないのか。わざわざ劣悪な環境に建てて、スクールバスで運行するわけですね。地図で見た感じでは本納中は、本納の大体中心部とは言いが、私は予算の無駄遣いだと思い、新しい校舎を建てることか。

大 橋 室 長 豊岡小学校をそのまま使えば、新しい校舎も使わずに済むだろうというお話だと思う。本納地域の中心というのは本納中あたりになる。もし豊岡小学校を3校の統一する学校として考えた場合には、新治地域の一番遠い地域からスクールバスとはいえ豊岡小まで来なければいけないことになる。また、豊岡小学校も建てってから年数が経っているので、今後大規模改修などの、建物に関する費用というのも大きくかかってくる。その辺を考慮すると、実際に建てた建物は大きい物ではないので、費用的にも小さい中で建てられたということが言える。本納中学校を利用しようと考えているのが、特別教室になり、理科室や家庭科室とか、そういったところは中学生と小学生で共用する。そのために普通教室の設置しかしていない。余剰教室として普通教室もあるので、小学校の教室が今の数で足らなければ、中学校の余剰教室を利用する。

住 民 具体的に中学校に統合されたときの、小さな校舎に移動したときの心配事として、教室数が少ない。廊下とかも余裕がない中で、例えば、女子児童の着替えの問題がある。教室を分けて着替えができるのか。他に、中学校の教室を利用するって聞いているが、小学校に配られた統合に関するメリットみたいなところでは、新しい教室で、床掃除をする必要がありませんとか、そういうことを書かれた手紙をいただいたが、実際、複数学級、1学年に2クラスになると、新しい教室校舎に入れられない学年が出てくると思う。そういうところまでは、具体的に何か決まっているか。

大 橋 室 長 校舎は8教室である。1年生から6年生までが1学年ずつでしたら、小学生すべて新校舎ということになる。それを越えたケースの場合には、高学年が中学校の校舎に入る想定をしている。

金 澤 課 長 更衣室の件、小学校では一般的に二つのクラスを、こちらが男子の更衣室でこちらを女子の更衣室にとしている場合もある。中学校には更衣の場所を設けてあるので、それについても、場所のエリアを決めて対応することは可能であると考え。

住 民 更衣室の問題については、確実にどうにかなると思う。再編の目的に、必ずクラス替えができるようにしたということが出ている。必ず2クラスにできるのであれば、統合してもメリットはあると思うが、結局1クラスのままだったら、ぎゅうぎゅうだ。教室いっぱい的人数で、1クラスになるのであれば、別々で2クラスでいる方が、子供たちにとってもいいと思うし、それが想定できないって言ったらおかしい。2クラス以上にしたいから統合するというのに、何か、その8教室で、もし2学級になれば中学校を使うというような考えが疑問である。

大 橋 室 長 当初、本納中の教室を使って教室数を増やさずに入れることが可能かどうかの検討をした。その中で、それでは教室数が足りない。その足りない部分を、新しい校舎を建てるという方向性になった。この新しい校舎は、本納小学校が移転した場合には、小学校の児童が入る形で収まるようになっているので、今は小学校の校舎と考えている。これが3校統合になると、本納中の校舎も含めた全体の中で、小学校を含められるという想定になっている。クラス数が幾つになるかという問題は、27ページで本納ニュータウンを見込んだ児童生徒数を記載してある。令和8年の児童数を、本納小学校から豊岡小学校、本納ニュータウンを見込みで記載をしてある。本納小学校から豊岡小学校までのこの児童数というのは、住民基本台帳を基準に出してある。これは本納ニュータウンの見込みを入れて270という児童数になっている。これが225というのが、本納小学校と新治小、豊岡小を合計した児童数になる。この辺りになると、教室数も適正規模までに至ってないが、複数のクラスを持つような学校になるっていうのは見込める。全部を足しても適正規模にならない可能性はあるが、それに近いクラスという形で維持できると見込んでいる。

住 民 本納ニュータウンの児童数が予想に反して、例えば倍であるとかの場合の対応で、豊岡小学校の統合がまた延期になるとか、そういう可能性はあるのか。

大 橋 室 長 こちらの数270が、最大時の児童数と見込んでいる。実際、教室の中にあとどのくらいの、児童や生徒が入ることができるかとなると、児童生徒合計で217人ぐらいまでを見込んでいる。そこまでは受け入れができるのではないかと見込んでいる。

住 民 本納ニュータウンの児童数が予想に反して多かった場合に、豊岡小学校の統合が延期になるとか、そういう可能性はあるか。

大 橋 室 長 受け入れ可能数、状況が、これを超えるようなニュータウンの児童が見込まれる場合には、その辺はやはり考えなければいけないと思う。

住 民 本納中に、小学校3校、新治・本納・豊岡が行くことについては、本納の中学校の周りは、水害で大変だということ、皆さん十分ご存知だと思う。そういう中で、本納中に本納小、新治小、豊岡小の父兄の方々は、本当にあそこの場所がいいと言っているのか。それについて聞きたい。先ほど、水害の

中で本当にあの場所でいいのかどうかっていうこと言われたようだが、そういった父兄とか、関係機関の方は、その地域の方々から、本納中の場所がいちばん最適だと言われているのか。それについて聞きたい。

佐久間次長 水害に対しましてはご心配されているご父兄の方ももちろんいらっしゃる。過去の水害の調査等もした中で、校舎の中までは、実際入ってきていないということは捉えている。本納小の今建築中のところについても、高さは本納中と同じぐらいの高さにしてある。また、避難誘導の仕方や、災害警報が発令された際に、子供たちの登下校を制限するような形で対応できるものと考えている。

住 民 わざわざ水害がすごい場所に行く気があるのか。父兄の方々は。  
中 村 部 長 今回の説明会、新治・本納・豊岡と説明させていただいた中で、水害の心配をする声は確かにある。先ほどの説明したとおり、中学校と線路の間の道路等については非常に低いので、大雨が降ると浸かってしまうという実情がある。一昨年の水害では、それ以外に、北側の線路付近の道路、そして敷地の一部が確かに浸かった。それについては、スクールバスで送迎することと、学校の方でもきちっとした対応することで、子供の安全を守っていくと考えている。抜本的な解決は河川の改修、赤目川そして乗川の改修をやった中で、進めていくということになる。それが完了しなければ抜本的な解決にはならないが、できるだけ早期に県に改修するように、また市も、乗川の改修を早くできるように進めていく。

住 民 本納中学校に新校舎も建てて、子供たちも多くなって、グラウンドが1個しかなくて、小学生も体育の授業があって、中学生も体育の授業があって、かぶったとき、そういうときに、本納小学校のグラウンドを使うという話を聞いたことがある。本納小は崖があって危ないのに、わざわざそういうグラウンドに移動するとか、そういうことが本当なのか。

金 澤 課 長 中学生も小学生も体育の授業を当然やるわけである。グラウンドと体育館と、大きな活動場所はあと柔剣道場もあるので、そういった大きい三つの場所を中学校と小学校で、学習内容を考えながら、割り振りをしていき、必ず小学生も中学生もグラウンドや体育館を使えるようになるようにローテーションを考えている。部活動についても、一緒になってどうなるのだとよく質問が出るが、部活動をやらない日が、小学校も中学校もある。部活動をやらない日は、小学生がやらない日は中学生が全部使え、逆の場合もある。また、小学生と中学生は下校時刻が違うので、小学生が帰った後に、中学生が全面を使うという使い分けをする、或いは一緒なる場合には、合同練習をすることも可能である。そのような中で、譲り合いながら、割り振りをしながら、一緒に仲良く使っていくというようなことを考えている。本納小学校のグラウンドを使うという話をされたが、本納小グラウンドについては今のところ、どのように使うかについては未定である。この後、有効な活用について考えていく。今の時点では授業で本納小の今のグラウンドを使う予定はな

い。

住 民 授業で使うことはない。でも、部活では使うことはあるのか。  
金澤 課長 今回の本納小のグラウンドについて、この後どのように使っていくかは、今の段階で全く未定である。授業とか部活動で使うという予定は決めていない。

住 民 私も本納中学校に通っていたので、何となくわかるが、プールとかは全くない。プールの場所に遊具の整備をするということは、プールは敷地内に作らないで、どこかへ行ったりするのか。

金澤 課長 今年度はプールがなくなりそこに遊具ができる。プールがなくなるので、本納小本納中は民間に委託をして、茂原のスポーツクラブに迎えに来てもらい、バスで行って授業をしてまた戻ってくることを計画している。通常のプールですと、たまに寒くて授業できないことがあるが、室内のプールになるので、天候の影響を受けることもなく、指導員の方も教えてくれるので、専門的な指導も受けられる。

住 民 本納小の崖問題に関して、本納小からの要望書、請願書が出ました。それに対しての移転問題だったはずですが、それがなぜ統合と一緒になくなってしまっているのか。その説明会がそれぞれ地域の方、保護者の方たちにあったのか。あ那时候、ちょうど10月25日の大雨のときも重なり、説明会は確かに実施されたりしていたとは思いますが、参加できる状況ではなかったのです皆さん。それを市の方たちはわかっているのか。その説明会に出てないから皆さん賛成だととられているとするならば、それはちょっと違ふと。私の方から伝えたい部分である。学校は、地域、保護者、学校と三角のトライアングル状態で連携取れて、成り立っているものだと思う。けれども、ここ最近、統廃合だ、移転だっていうので、本当にバラバラな状態になって、保護者の皆さんも、生徒の皆さんも本当に混乱している状態が現状である。多分説明会、意見交換会自体が本当に少ないと思う。全国でもいろいろこういう問題が行われているが、もっと数多くやっていると。もっとも数をふやして欲しい。もっと地域の皆さんの意見、子供たちの意見をもっと聞いて取り入れて欲しい。そうしなければ、いい学校作りというのはまずできないと思う。子供たちの学校、子供たちのための学校を作りたい。ということで、統廃合という話ならば尚更、子供たちの意見、地域の皆さんの意見、もっと聞いていただきたい。あと、土曜日の説明のときのグリーンベルトの件で質問して、その歩道のないところにグリーンベルトを作るというのが本来のグリーンベルトの意味だ。それを校内につくる。通学路の危ない箇所、本当にいっぱいある。学校の先生たちもパトロールをしながら確認をしてくださっていますし、保護者の皆さんもこういうところが危ないよっていうのは学校のほうには伝えているのですけれども、もっと調べていただきたい。それから、28ページで、グリーンベルトが北門の駐車場から伸びているが、北門からも生徒を入れるのか。グラウンドや体育館を合同で使うという話だった



が、バスケとかサッカーなんかは、規格が違う。そこに関してはどうされるのか。

金澤課長 子供たちの登下校について、基本的には今の正門のところを使う予定になる。北門の方は、保護者の方が送ってきて、そこで子供を降ろした場合に、わざわざ外を回って正門から入りなさいという指導ではなく、その場合には体育館の前を通過しての登校ということにもなってくると思うので、その辺は臨機応変になる。スポーツの規格が違う。サッカーゴールの大きさも違うしバスケの高さも違うので、小学生なら小学生の広さで、高さということで対応する。

大橋室長 駐車場のところから伸びているグリーンベルト、これについては今、学校の方で通学路の調整をしている。バスケボールの関係は、高さが調整できるバスケゴールを設置して、中学生でも小学生でも対応できるような形を考えている。統合の関係では、第一次実施計画の中で、3校統合する方針が位置付けられた。第二次実施計画の中で、その統合の時期をいつにするかというのを決める計画となっていた。そのような中で、本納中の中に新たな校舎を建設して、3校で利用する統合後の校舎というような流れになっている。

住民 本納小の方のご意見だが、実際その建てられた建物を見て、こんなに小さいなんて聞いてなかったとか、ここに立つなんて聞いていなかったっていう声がすごく多く私のところにあった。それってご存知か。

大橋室長 本納小のPTAから提出がありました要望書の中では、本納中学校の余剰教室を利用することと、校舎を建てるということが記載されていて、その内容に近い形の建設となっている。

中村部長 保護者が、校舎が小さいということで、聞いていないというお話ですけども、PTAから出た要望書の中には、本納中の中への移転という内容が記載されていた。その時点で、具体的にどういう校舎を造ることまでは決まっておりましたので、その余剰教室を使うことで新しい足りない分は校舎を建てるというのは要望書に沿って、そのようにした。確かに今建てている建物だけを見ると、小さいというふうにお感じになるかもしれないが、あそこだけが小学校ということではなくて、その新しい建物、そして特別教室棟また体育館グラウンドを含めて、本納小という考え方である。8月10日に、この校舎が完成して引き渡しになる予定になっているので、その後に内覧会を予定している。今日も現地を確認してきたが、非常に廊下も広くて、思っていたよりも、快適に使えると考えているので、まず、ご覧になっていただいて、その上でまたご感想等、ご要望等があればお聞かせいただければと思う。

住民 本納小の方たちには、もっと説明会を開いてあげたほうがよかったのではないかなとすごく感じる。これが自分の豊岡小学校の立場だとしたら、自分はそう思う。保護者の皆さんたちにしてみれば、学校に生徒を預ける。そう

いう面で、安全安心を求めるのは当然なこと。ハード面ソフト面に関して、何か難しい言葉で簡潔にプリントにされて、それで終わりというものではない。とにかく説明が少ない、すごくそこが強く思っている。もう一つ土曜日の質問でシューターの話で、地図上では、どう見ても狭いという話で、それで終わってしまったけれども、非常階段がない。階段から逃げるしかない。もし階段から逃げられない場合にシューターを使う話だったが、地図上で見る限り、どこにシューターが降りるのか。そしてそれは全員降りるのに、絶対時間がかかる問題だと思う。命に関わる問題である。今までの説明会でも、後づけで今考えていますっていう答えだったが、本来、学校建設の時点で、考えなければいけない問題だと思う。

中村部長 説明会が不足しているという点について、丁寧に、何回もご説明をしなければいけなかったという点については反省をしている。本納小に関しても移転日が9月に控えているが、今後も丁寧に説明をしていきたいと考えている。また豊岡小に関しても、今回は案として説明をさせていただいているので、これで終わりということではなく、今後も、地元の方たちと、また保護者の方たちと丁寧に説明会をやっていくと考えている。シューターの降りる位置は、基本的には二階と、三階につけるという予定で今考えている。先日、南側というお話をして、今日も現地を確認してきたが、具体的にどの位置かは、まだ決定しているわけではない。それからその安全性も考慮した中で、一番どこに降りるのがいいのかは、また、詳細を詰めましたらお知らせする。

住民 シューターですと、避難するのに時間もかかると思う。本来であれば、側につける非常階段を設けなくて、なぜシューターをつけるのか。

大橋室長 建築基準法では5階以下の場合については、床面積（居室部分・階毎）が200平米をいかなければ、階段が一つでいい。両側から降りられるような階段のフロアもあるが、今回の床面積であれば、階段は一つでいいという形になっている。消防法の関係の方で、シューターを本来3階につけるのみでいいが、あえて2階にもつけている。

住民 安全ということで、まず中に階段が一つある。それとエレベーターっていう話をちょっと聞いている。外階段の、双方向の避難経路っていうのがあると思うが、現在の中でこのクリアランスの中に、実際設置することが可能なかどうかは、議論されたか。例えば南側ですとまず不可能。体育館と新校舎の間になったときに、可能なスペースがあるのかどうか。どのくらいの規模の災害がくるか分からないので、そういう中で、やはり安全安心が最優先にならなければいけないので、付けていただきたい。それができないという理由があるのであれば、逆に言ってほしい。基準法とかの話があったが、安全をやっぱり考えなきゃいけない。予算はどうかのこの話は別だと思う。そういう中で、是非とも検討いただきたい。

大橋室長 どういった理由で設置ができなかったか確認する。

住 民 9月に本納小が入ってくる。中学生たちにはもう周知はしているか。中学生たちが、本納小学校を迎える体制が気持ちの面で出来ているのかどうかが見えてこないの、その辺は、中学校でもちゃんと説明はしているか。

金澤課長 令和2年8月に本納中学校の生徒に向けて、本納中学校の先生方から、本納小学校は令和3年の9月に移転をしていくという話をした。そして、子供たちからは、その移転についてどう思いますかということで、アンケートをとって子供たちの考え意見等も集約をしてある。移転に反対をする意見もあったし、移転に賛成する意見もあった。反対の方の数が多かったというのが正直なところだが、反対の数が多い主な理由としては、工事の音がうるさくて勉強に集中できないとか、小学生が騒ぐことによって授業に集中できなくなるということがあった。この子供たちの声を聞いて、工事業者にも、子供たちの授業中の大きい音であるとかについては極力気をつけて欲しいということで話をした。子供たちの声を聞いて、ある程度、こちらの方で対応できることについては対応してある。今後についても、実際に9月に本納小が移転してくるので、中学校の先生方から、中学生にもきちんと説明をしながら、準備を進めていきたい。逆に意見では、みんなで一緒にやれることが楽しくなるのではないかと、早く一緒にいろんな活動をやりたいという意見もあった。

住 民 子供たちが納得すればいいが、ある程度自我が目覚めてくると、体育館は自分たちがバスケットをやるのに、何で小学生にわざわざ渡さなきゃいけないのかみたいなのが出てくるのかなっていうのがあるので、その辺のメンタルのケアもちょっとしっかり、考えてほしい。